慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	投稿規定
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院法学研究科
Publication year	2000
Jtitle	法學政治學論究 : 法律・政治・社会 (Hogaku seijigaku ronkyu : Journal of law and political studies). No.47 (2000. 12) ,p.431- 433
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10086101-00000047-0427

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

投稿規程

一　投稿資格　原則として大学院法学研究科修士課程以上の在学生、研究生、修士の学位を有する者および後期博士課程単位取得退学者とする。ただし、大学卒の者であっても、研究機関、マスコミ・言論機関、その他企業・団体の研究部門等において研究に従事している者に対しては、門戸を開放する。

二　原稿枚数　①(a)　現在の投稿の趣旨に従い、総字数を三万二千字以内とする。

(b)　四〇〇字詰原稿用紙であれば八〇枚、二〇〇字詰原稿用紙であれば一六〇枚以内とする。

(c)　ワープロの場合は一行三〇字の一頁二〇行で、五四枚以内とする。図および表は、一点あたり六〇〇字に換算する。注も字数に数える。字数はあくまで三〇字×二〇行×五四枚とする。空白部分も換算されるので、実際の字数がそれよりも下まわっていたとしても考慮しない。

②　投稿者は自ら検証し、原稿提出用紙に原稿の枚数を申告する。

③　提出された原稿については、申告の内容が正しく、しかも上記要件に合致しているか否かを調べ、要件に合致していない場合は審査しない。

三　原稿内容　法律学、政治学、社会学に関する学術論文。

四　原稿形式　和文で書かれたものに限る。原則として縦書きとする（数式等が多く性質上横書きが相当と思われるものについては横書きでの提出を許可するが、その場合数字の表記に注意すること）。

五　論文提出・刊行期日（各年）

	提出期日	刊行期日
春季号	一一月一五日	三月一五日
夏季号	二月一〇日	六月一五日
秋季号	五月一五日	九月一五日
冬季号	八月一六日	一二月一五日

＊当日が休日に当たる時はその翌日。その翌日が振替休日に当たる時は翌々日。

六　提出方法　本論文二部（散逸しないように綴じること）に次の書類を付して、学事センター窓口へ持参、または郵送すること。郵送の場合は、提出期日必着。遅延は、一切認めない。提出した論文は、一切返却しない。

①　提出用紙（所定用紙：指導教授の推薦印を付すこと）

②　論文標題（二種類、後述十一、執筆要項Ⅱ①参照）

③　論文細目次（全ての見出しを掲記）

④　論文要旨（一〇〇〇字程度）

⑤　履歴書（所定用紙　慶應義塾大学大学院法学研究科に在籍していない者のみ添付）

⑥　審査結果を通知するための封筒（長型三号（120×235）を二通用意し、宛先を明記し、九〇円の切手を貼付すること）

（②～⑤の提出部数はオリジナル一部、コピー一部の合計二部のこと）

㊟　持参、郵送を問わず、必ず論文の控えを取っておくこと。

七　論文掲載費　論文刊行費を納めていない者（一九八九年四月前に修士および後期博士課程に入学した者、研究生および現在慶應義塾大学大学院法学研究科に在籍していない者）については、掲載費として二万円を徴収する。掲載費は、審査合格の通知を受けたとき、納めるものとする。

八　審査結果の通知　審査結果は提出された封筒を利用して連絡する。審査には約一カ月かかるので、発送は翌月の中旬に行う予定である。

九　論文提出受付窓口

直接の場合　慶應義塾大学三田学事センター一・二番窓口

郵送の場合　〒一〇八－八三四五
東京都港区三田二－一五－四五
慶應義塾大学三田学事センター法学部係

十　問合せ先　問い合わせは郵送またはＦＡＸで行うこと。

郵送の場合　〒一〇八－八三四五
東京都港区三田二－一五－四五
ＦＡＸの場合　〇三－五四二七－一五七八
慶應義塾大学研究室内
法学部教授　田村次朗
（編集委員会幹事）

十一　『法学政治学論究』執筆要項

Ⅰ　原稿について

・表記が論文の中で、不統一にならないように細心の注意を払うこと。

・誤字脱字がないように注意すること。

・日本語として正確な表現であるかまた適切な表現であるかを、チェックすること。

Ⅱ　原稿の体裁について

①　標題

・審査に際し、誰が著者であるかを伏せるため第一頁には、標題のみを書く。なお、別に、原稿と同種の紙に標題、氏名および在籍大学院名、課程、学年もしくは在職機関名と地位を書いて添付すること。

②　目次

・用紙をあらため、章・節相当の見出し（③）のみで作成する。

③　本文

・用紙をあらためて書き出すこと（目次の余白に続けて書き出

さない)。

・見出しには、第、章、節等の文字を使用せず(スペースの余裕がないため)、見出し番号は以下に統一する。

章　一、二、三……

節　㈠、㈡、㈢……

項　1、2、3……

目　(1)、(2)、(3)……

・見出し番号と見出し文句との間は一マスあけて、点は付けない。本文における、章、節相当の見出しの前後は一行あける。なお、原稿の体裁にかかわらず、仕上がりは規定の体裁に統一する。

・本文中で既に発表された自説に言及する場合、著者が誰であるかを伏せるため、その学説の主張者として氏名を書き、「私がかつて指摘したように……」といったこの論文の著者が誰であるかわかるような表現は用いないこと。

・引用文は、引用文であることを明示するため、鍵括弧でくくる。長文の引用の場合は、独立した段落とすることが望ましいが、その際には、本文よりも一字下げて書く(原則として、本文よりも小さな活字で組むので、括弧は不要)。

④　注

・注は後注とし、本文末尾に一括する。番号は全体を通し番号とし、体裁は(1)とする。注の書き出しも、用紙をあらため、行頭一マスに(1)を書き、一マスあけて注本文を書く。注本文が二行以上にわたる場合は、二マス目から続ける。

・著者が誰であるかを伏せるため、引用文献の著者名については氏名を書き、拙著、拙稿等の語は使用しないこと。

⑤　図表

・図および表の原稿は、本文原稿とは別にし、組込箇所を本文原稿中の希望箇所上部に「表1入る」という形で指示する(ただし、組み上がりの体裁上、必ずしも指示通りにいかない場合がある)。

・図および表は、一点ごとに一枚に書くこと(一点が数枚にわたったり、数点を一枚に書いたりしない)。

・手書きの場合、図は、方眼紙に少し大きめに、表は集計用紙に書くことが望ましい。用紙は本文原稿用紙と異なってもよい。

・見出しは、表1、図1という形に統一する。

⑥　その他

・原稿は通し番号を記入し、必ず右肩を紐等で綴じること(クリップ等は不可)。

・図および表の原稿は別に綴じ、本文原稿からの通し番号を付す。

Ⅲ　提出形式について

・原稿は、以下の二通りの形式のうちいずれかにのっとって作成し提出すること。

(1)　手書き原稿(原稿用紙を使用)

(2)　活字原稿(ワープロ・パソコン等からプリントしたもの。

MS-DOSテキストファイル形式で保存したフロッピーディスクを添付）

・テキストファイルがあると、印刷所で直接入稿ができるため、誤植も発生しにくく、刊行までの期間も短縮できるので、(2)の形式で提出されることが望ましい。

・いずれの形式であっても、『法学政治学論究』掲載時には原則としてすべて縦組みとなることを留意されたい。ただし、数式等が多いなどの理由で委員会が特に認めた論文については横組みとなる場合もある。

Ⅳ　手書き原稿について（前述Ⅲ(1)）

①　全体を通して一定の原稿用紙（四〇〇字詰）を使用すること（但し、図表は例外。また、二〇〇字詰原稿用紙でも構わないが、規定の枚数や執筆要項は四〇〇字詰を基にしてあるので、原稿枚数、各種枚数計算もこれに応じて読み換えること）。

②　縦書きにすること。

③　黒または青インクを使用すること（鉛筆書きは不可）。

④　文字は一マスに一字ずつ、楷書で書くこと。ただし、例外として

i　ダッシュ（――）とリーダー（……）は二マスにわたってもよい。

ii　句読点と受け括弧類は行末の文字と一緒に書き、行頭にはおかない。

⑤　欧文は、一マスに大文字一字、小文字二字の見当で、活字体で書く（語間は、一マスあける）か、タイプすること。なお、イタリック（斜自体）にする場合には、赤のアンダーラインを引いておくこと。数字は小文字として扱う。

Ⅴ　活字原稿について（前述Ⅲ(2)）

・論文を紙にプリントアウトした原稿と、論文を保存したフロッピーディスクとの両方を提出する。両者は必ず同一内容とすること。

・審査は紙面によって行われるため、万が一両者の内容が異なるときは紙面の方が優先される。

・プリント時の注意点

①　横書きまたは縦書きのいずれでもよい。
横書きの場合は、A4判・無地（無罫線）の用紙を縦置きにしてプリントする。
縦書きの場合は、A4判・無地（無罫線）の用紙を横置きにしてプリントする。

②　文字間隔は狭く詰め、行間隔はゆったりとあけ（一文字分以上）、読み易さに留意すること。

③　文字は一〇ポイント以上の大きさにすること。

④　文字以外の論文の要素（図および表）は、本文中に含めず、別紙に一枚ずつ印刷し、本文原稿中に組込箇所を指示すること（指示方法は前述）。

・フロッピーディスクの注意点

① 2DD、2HD いずれのフロッピーディスクを使用しても構わない。ただし 2DD の場合は 720Kb で、2HD の場合は 1.44Mb でフォーマット（初期化）すること。

② MS-DOS のテキストファイル形式で保存すること（これは MS-DOS 機（含Windows）、Macintosh いずれにも対応した形式である）。ワープロによっては MS-DOS 変換が必要な場合があるので、各機種のマニュアルの「MS-DOS 変換」の項目を参照のこと。

③ フロッピーディスクには、論文のファイル一つのみを保存し、他のデータを入れないこと。

〔編集後記〕

一 今回投稿された論文は二四点あったが、その内一三点を掲載することにした。

二 投稿された論文の中で、制限字数を超えるものがまだ見受けられる。投稿規程に書かれているように、定形外で投稿される論文は審査の対象とならないので、十分注意していただきたい。

三 制限字数については以下の点に注意すること。あくまで定形に基づいてカウントされ、字数はあくまで三〇字×二〇行×五四枚とする。空白部分も換算されるので、実際の字数が制限字数を下まわっていたとしても考慮しない。図および表は一点あたり六〇〇字に換算し、また注も字数に数える。

四 提出期限後の論文の修正はすべて慶應義塾大学出版会の方で行われるので、編集委員会事務局宛てへの修正、校正の追加的提出は受け付けない。なお掲載予定の論文に関する校正は一度だけ行えるが、その段階で最低限の修正のみ加えるようにしていただきたい。

五 法学政治学論究への e-mail による問い合わせは、一切受け付けていない。郵送またはＦＡＸにて問い合わせをするようにしていただきたい。

六 今回も多くのすぐれた論文が投稿されたが、今後もこの傾向が続くことを望んでいる。

〔田村次朗・記〕